

Suma Tomogaoka 通信

兵庫県立須磨友が丘高等学校 総合学科推進部
令和4年度 第1号 5/13



“選択の自由から”

校長 川崎 芳徳

本校は、昭和58年（1983）4月に開校し、今年、40周年を迎えます。普通科から、現在の総合学科に改編されたのは、平成14年（2002）4月で、こちらは、はや21年目を迎えています。

「総合学科」は、普通教育を主とする学科「普通科」と、専門教育を主とする学科「専門学科」に並ぶものとして、我が国では平成6年度（1994）から導入されました。それまでの画一的な価値観や目標から、個々の多様な生き方、考え方を尊重することや、自己が責任を持って行動することが、さらに強く求められるようになったことから、生涯にわたった自己の生き方、在り方、生きがいをしっかりと考えさせる学校教育が求められ、誕生したものです。

この趣旨を十分に理解し、皆さんには、幅広い選択科目の中、自身の個性を生かした主体的な学習に取り組み、将来の職業選択を視野に入れた進路に向け、学びを深めていただきたいと思います。

さて、今年度、本校創立以来、初めてとなる取組がスタートします。約5か月間（「1学期末考査終了翌日～秋分の日」及び「2学期末考査終了翌日～卒業式前日」）にわたる、登下校における私服併用可能期間の設定です。その日の体調や気分、気候、スケジュール等々に応じて、制服でも私服でも、自由に選択して登下校してください。

人間を人間たらしめている根幹には、「選択の自由」があると考えています。先行き不透明で予測困難な時代を生きる今、総合学科である本校における様々な自由な選択を通した、「総合的人間力」向上に大きく期待しています。

これからも、「友愛」の精神を学校生活の柱に据え、「知・考・行」を校訓とする本校において、明るく伸びやかに“命”を躍動させ、たった一度の人生で、自らが描く進路に向かい粘り強く歩み続け、“人生の目的”に迫って行ってください！“人生の目的”とは・・・「幸いにも、ご両親からこの世にいただけた『命』に深く感謝しながら、可能な限り『魂』を磨き自らを高め、獲得した力で、少しでも世のため人のために役立つよう努めていくこと」・・・だと、私は考えています。

結びになりましたが、ご家庭・地域の皆様には、本校教育活動へのご理解、ご協力に心より感謝申し上げますとともに、引き続きのご指導ご鞭撻を、何卒よろしくお願い申し上げます。



離任・着任された先生方

先生方の新たな環境でのご活躍をお祈り申し上げます！

お世話になりました！ 転出・退職（敬称略）			よろしくお祈りします！ 転入（敬称略）		
数 学	松井 孝明	（武庫荘総合高校 教頭）	国 語	萩原 康平	（姫路南高校より）
芸術（書）	岡村 正道	（神戸特別支援学校 教頭）	地歴・公民	中村 和志	（神戸鈴蘭台高校より）
英 語	佐野 美穂	（東灘高校 主幹教諭）	地歴・公民	廣田 穰	（芦屋国際中等教育学校より）
保健体育	榎木 康雄	（教育委員会事務局）	数 学	垣脇 静子	（舞子高校より）
国 語	松本 朱季子	（離職）	数 学	田中 道徳	（三田祥雲館高校より）
地歴・公民	尾崎 竜平	（夢野台高校へ）	数 学	八色 高志	（市立尼崎双星高校より）
地歴・公民	小座本幸希	（長田高校へ）	理 科	寺尾亜由美	（尼崎高校より）
数 学	竹内亜希子	（舞子高校へ）	理 科	仙頭 明奈	（市立押部谷中学校より）
数 学	三原 貴史	（北須磨高校へ）	保健体育	山村 春樹	（淡路三原高校より）
理 科	橋本 智美	（聴覚特別支援学校へ 期限付）	芸術（書）	田中由佳理	
理 科	皆越 のぞみ	（兵庫高校へ）	英 語	柏木 優作	（伊川谷高校より）
情 報	平野永里子	（舞子高校へ）	英 語	坂田 有士郎	（須磨東高校より）
英 語	大西 啓子	（ご退職）	実習助手	山崎 恵美	（舞子高校より）
実習助手	西河 敦子	（ご退職）	事 務	奥崎 美羽	（新採用）
事 務	小林 幸枝	（視覚特別支援学校）			

2年次「課題研究Ⅰ」全体講演会報告

2年次 NIE 講演会

4月13日（水）、2年次を対象にNIE講演会が実施されました。講師として、神戸新聞NIX推進部の三好正文様をお招きし、新聞を使った調べ学習を行いました。

まずは新聞記事の特徴について説明していただき、その後ワークを行いました。生徒たちは自分が関心のある記事を選び、記事に対する疑問を書き出して調べたり、グループメンバーと意見を交換したりしながら視野を広げ、最後には発表を行いました。2年次では、これから一人ひとりがテーマを設定し、個人の探究活動（課題研究）が始まります。そのテーマ設定をする際に必要となるプロセスを体験できたと思います。



当日、新聞を使った調べ学習をまとめたものは、現在セミナー1前廊下に現物を展示しています。ご覧ください。

2年次 課題研究Ⅰ全体講演会

4月19日（火）、2年次の「課題研究Ⅰ（総合的な探究の時間）」の時間に、甲南大学フロンティアサイエンス学部より甲元一也先生を講師としてお招きし、全体講演会を実施しました。

課題研究（探究活動）が求められている現在の社会的な背景を踏まえ、探究的な学びを通して身につけたい力や課題研究への向き合い方について等、分かりやすくお話していただきました。

生徒たちは、課題研究の意義を確認し、設定した課題の解決に向けた視点の持ち方や、課題設定のヒントについて等、多くを学ぶ機会となりました。この学びを生かして、これから生徒の課題研究がスタートします。

〈生徒の感想〉

- ・今回、記事に対する疑問やネットでの賛否の声を書き込むことで、記事に対する自分の意見を明確に持つことができた。記事に対して深く考える機会となり良かった。
- ・仲間と記事について意見を述べ合うと、新しい考え方に気づきました。それぞれに意見があり、自分では見つけられなかった新しい見方がありおもしろいと感じました。

1年次「産業社会と人間」 答えの無い問いワークショップ



4月22日（金）の「産業社会と人間」の授業では、グループワークの基礎を養うための基礎力実践として、1グループ6人の編成でワークショップを行いました。1つの課題に対して個人で意見をまとめ、グループで共有し、代表者が発表するという流れで2つの課題に取り組みました。

1つ目の課題は、「昆虫を食料としなければならなくなった時に、昆虫恐怖症の友人をどのように説得するか」という課題について全員で取り組み、2つ目の課題は学年を4つに分け、4つの課題のうち割り当てられた1つの課題について取り組みました。①「豊かな朝食のための3つの条件とは」②「100年後の子どもたちの遊びとは」③「画像から考える国際会議での日本のジェンダー意識とは」④「100万円で本校生徒・職員を全員幸せにする方法とは」という4つの問いでした。

思っていた以上にグループワークでの会話が弾み、また、代表者が1年生とは思えないほど堂々とした態度で発表できていた様子が印象的でした。

生徒の発表より（抜粋）

①の問い

最も豊かな朝食は「栄養が摂れて個人が満足できる朝食」だと思います。そのための条件は家族や友達と一緒に食べることで食事を楽しみ、1日を有意義に過ごすことができるので「誰かと一緒に食べる」こと、自分の好みのものを食べることで満足感が得られるので「食べたいものを食べる」こと、偏食にならないように「栄養バランスを考える」ことの3つを条件として考えました。

②の問い

人と関わることが減り、機械などを使って遊ぶことが増えると思います。例えば、バーチャル内で友達と会い、話すことやスポーツをすることなど、室内で実際に会っているかのように遊ぶことができると思います。

③の問い

私たちのグループでは、日本側に女性がいなかったために何度もリツイートされたのではないかと考えました。理由は、政治に女性の意見が反映されにくいからだだと思います。女性差別をなくそうという目標を掲げているにも関わらず、国の代表がそのようなことをしてはいつまでも進まないと思うからです。

